

私のすすめるこの1冊

本間 友巳（教育臨床心理実践センター 教授）

『べてるの家の「非」援助論—そのままがいいと思えるための25章』

浦河べてるの家（著）

旧世代に属する私にとって、パソコンの操作はきわめて難儀なもののひとつである。ひとたびトラブルが生じるとまったくの対応不能状態に陥る。そこで、これまでしばしばその対応を専門家にお任せしてきた。すると、専門家はいとも容易く私のパソコンを修復させてしまう。その手さばきは私には「神の手」のように映る。そして、専門家と素人の差がどれほど大きなものかを感じることになる。

翻って、私の専門領域であるカウンセリングのような対人支援に関わる分野では、専門家と一般の方との差はコンピュータサイエンスほど明確で決定的なものではない。たしかに、専門家の端くれである私の中にも、対人支援に関する知識やスキルが一般の方より多いことへの若干の自負はある。だが、いざ臨床実践になると、事はそれほど単純ではない。心理学などの対人支援の専門書にまったく触れたことがなくても、悩んでいる人や困っている人（来談者）の心を癒やし元気づけることのできる人にしばしば出会う。その一方で、専門家を自負していても、来談者から敬遠される人もいる。この分野での専門家と素人の実践力の差は不明瞭なのである。残念ながら、その専門性は脆弱と言わざるをえない。

自らの専門性に対して、このような思いを感じ

じていた頃、たまたま手に取った本がこれである。本書には、精神障がい等を抱えた人たちが集う場所（べてるの家）での日常が、ソーシャルワークの専門家である向谷地氏の手によって詳細に描かれている。だがその日常は、支援する専門家と支援される当事者が切り分けられた整然とした世界では決してない。むしろ、両者が混ざり合い混沌とした、泥臭くトラブルだらけの日々が続いていく。

しかしながら同時に、そこには不思議なほどの明るさや清々しさが漂っている。それはべてるという場で、精神を病む受動的な弱者から能動的な主体へと、当事者たちの希望の物語が生成されていく予兆、すなわち生きる力の回復を予感させるからなのかもしれない。

当事者のエンパワーメントへの支援、これこそが対人支援の主要な目的であることを本書は教えてくれる。そして、この目的に向けての試行錯誤を厭わない粘り強さを持ち続けること自体に対人支援の専門性があること、このことも同時に本書は伝えてくれる。

なお、もし対人支援をより深く学ぼうと思う人には、「オープンダイアログとは何か」（斎藤環（著））も併せてお薦めしたい。



★第22回 教科書展

環境教育副読本の歩み ～森林、エネルギーの扱いを中心として～

【会期】11月9日(木)～12月27日(水)

【場所】企画展示室 北館1階 ※図書館開館時間に準ずる



京都教育大学附属図書館「第22回 教科書展」開催記念行事

※申込・お問合せ等の詳細は図書館HPにて

『企業・NPOと学校が連携した森林ESDフォーラム in 京都』 ～森林を活用した「主体的・対話的で深い学び」、 「地域学校協働活動」の促進に向けて～ **※要申込(定員80名)**

【日程】2017年12月3日(日) 14:00～17:00 (※エクスカーション 13:00～13:45)

【場所】京都教育大学附属図書館 研修セミナー室1・企画展示室

【共催】農林水産省林野庁、(公社)国土緑化推進機構、美しい森林づくり全国推進会議

【後援】京都府、(公社)京都モデルフォレスト協会

《内容》

- 基調講演 「小学校教科書における森林・林業の扱いの変遷、全国で制作された副読本の特徴と、新学習指導要領における森林ESDの重要性」 山下 宏文(京都教育大学 教授)
- 概要報告 「企業・NPOと学校が連携した森林ESDの提案 ～地域学校協働活動に対応して～」 (公社)国土緑化推進機構
- 事例報告 3件
- パネルディスカッション「企業・NPO等と学校・緑の少年団が連携した森林ESDの促進」
基調講演者、概要報告者、事例報告者が登壇

『エネルギー環境教育 実践発表会 副読本を活用したエネルギー環境教育の授業実践』

【日程】2017年12月16日(土) 13:30～16:30

※申込不要

【場所】京都教育大学附属図書館 研修セミナー室1

【共催】エネルギー環境教育関西ワークショップ

近畿・北陸エネルギー教育地域会議(経済産業省資源エネルギー庁)

原子力発電環境整備機構

《内容》

- 解説 「エネルギー環境教育の副読本の歩み」 山下 宏文(京都教育大学 教授)
- 実践発表 6件



★ e-project 「重複障害ってなあに？」による 来てみてとくし展

【会期】12月1日(金)～
12月25日(月)

【場所】企画展示室 北館1階
※図書館開館時間に準ずる



見に来てね!



開催中!

わくわく kyo2 ライブラリー2017 読書キャンペーン

図書館で借りた本の紹介をして、そったくん
グッズや図書カードをもらっちゃおう!

2017年10月10日(火)～
2018年1月15日(月)

京都教育大学
それはかなう夢講座

「先生になりたい - それはかなう夢」は、京都教育大学のシンボルフレーズです。「それはかなう夢講座」では、本学の教職員が、学部、大学院のすべての専攻、研究科の学生や教職員の皆さんを対象に、科学の魅力をわかりやすくお伝えしていきます。特に、小学校の先生になりたいと思っている学生の皆さんのご参加をお待ちしています。

第9回のお知らせ

【日時】2017年12月13日(水)
12:10~12:40
【場所】附属図書館1階 リフレッシュラウンジ
【講師】牛山 道雄(発達障害学科 准教授)
【テーマ】認知と運動の科学

主催:「現代的ニーズを踏まえた「理系」教員養成のための
カリキュラム開発」プロジェクト
後援: 京都教育大学同窓会・京都教育大学附属図書館

《概要》

最近、板書内容をノートに書き写すことが苦手な児童生徒の報告が多くなされています。黒板を「ばっ」と見て、その内容を記憶にとどめ、ノートに情報を記載する一連の行為のどのプロセスに課題があるのか? また、記憶にとどめることが苦手な児童は、それを補うための代替行為(何度も黒板を見返すなど)をとるのでしょうか? この疑問を解決するために、記憶測定と眼球運動測定を行いました。その成果をご紹介しますと思います。

おにぎり2個
&お茶付き!
先着30名



リクエストと投票で
話題の本を読もう!

学習研究以外のリクエスト本を一定期間掲示し、皆さんの投票で購入する本を決定するリクエスト企画をしています!

●リクエストは随時受け付けています
リクエストや投票にどんどん参加してください!

12月の投票期間は
12月13日(水)~12月27日(水)
です。

※図書館1階渡り廊下・北館2階研修セミナー
室前に展示しています。

児童書コーナー(南館1階)
幼児教育科主催

えほんのもり 12月

学生による絵本のよみきかせ

日時: 12月18日(月) 15:00~
絵本: 『ふゆのおるすばん』など

今月の絵本カード(学生作)

『バムとケロのさむいあさ』

作・絵: 島田 ゆか

出版社: 文溪堂

※児童書コーナーに展示しています。他にも毎月
かわいいカードが飾られていますので、ぜひ見
に来てください。↓



今月の絵本カード(学生作:部分)



企画展「茶道具が語る戦争

—モノから考える平和学習—

【期間】11月6日(月)~12月24日(日)
【時間】月・水・金・日 13:30~17:00

第6回 京都・大学ミュージアム連携

スタンプラリー(本学は参加大学です。)

2017年9月30日(土)~12月9日(土)
京都の大学ミュージアムをまわって「知」と「美」
と「素敵な景品」を手にとろう!

教育資料館

まなびの森ミュージアム

今月の逸品
「ナウマンゾウの大腿骨」

詳しくはホームページの「今
月の逸品」コーナーをご覧ください。展示を
していますので、ぜひ教育資料館へ来て
ください!



詳しくは...教育資料館 まなびの森ミュージアム
<http://www.kyokyo-u.ac.jp/museum/>

今回の執筆者 **伊藤 悦子** (教育学科 教授)

人権教育の継承と「子どもの貧困」 —小・中学校教員調査を通じて—

伊藤 悦子

京都教育大学紀要. 2017, No.131, pp. 69-83

人権教育は年に何回かある人権学習だけを指すのではなく、教育の基本に子どもの人権を据えることであり、不利な立場にいる子どもたちの学力を保障することである。その点から考えると、「子どもの貧困対策」は人権教育の課題であるといえる。そこで、若手教員に対する人権教育の継承と「子どもの貧困対策」とを関連づけて調査することにした。

アンケート調査の結果、家庭訪問の重視や生活背景も含めて子どもを理解しようとするなど、人権教育が重視してきた実践が定着していることは確認できたが、そうした実践を支えている人権教育に関する考え方は若手とベテランでは違っていた。すなわち、家庭状況の違いによって生じる学力格差の是正に取り組んできたベテラン教員は「是正できる」と思っているのに対して、若手教員は懐疑的な傾向があったということである。ベテラン教員の場合、特に同和地区住民や在日韓国・朝鮮人などのマイノリティ保護者と交流している経験が人権教育の考え方に影響していた。

教員になる若者の生活範囲や人間関係に、マイノリティはあまり登場しない。多様な人々と出会うことが人権教育の考え方に影響していることを踏まえて、教員採用後は地域の人と交流してほしいし、大学在学中は自らそうした人々と出会う場面に飛び込んでほしい。それが人権教育の継承に関連しているし、格差是正を目指している「子どもの貧困対策」の取組の下地になるのではないかと考えている。

※本タイトルの論文は京都教育大学紀要 131 号に掲載されています。

※京都教育大学リポジトリ「クエリ(KUERe)の森」<http://ir.kyokyo-u.ac.jp/dspace/>でもご覧ください。

開館日程 □9:00-21:00 ■9:00-17:00
■学内者のみ(9:00~17:00) ■休館(CLOSED)

| 2017年12月 | | | | | | |
|----------|----|----|----|----|----|----|
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| | | | | | 1 | 2 |
| 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
| 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
| 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
| 31 | | | | | | |

12/2推薦入試(学外者来館不可)
12/9 推薦入試
12/26-1/8 冬季休業

| 2018年1月 | | | | | | |
|---------|----|----|----|----|----|----|
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 |
| 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| 28 | 29 | 30 | 31 | | | |

1/9 授業再開
1/13-1/14 大学入試センター試験

●京都教育大学附属図書館ホームページ

<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/>

●携帯版図書館ホームページ (QRコード)

<http://tosh02.kyokyo-u.ac.jp/webopac/mobtopmnu.do>



京教図書館 News No.207(2017年12月号)

発行日:平成29年12月1日

編集発行:京都教育大学附属図書館

問い合わせ先:library@kyokyo-u.ac.jp

